

第6号

定価一年間300円
組合員の購読料は
組合費に含む



発行

檜山教職員組合

〒043-0056 江差町字陣屋町86-1
Tel 0139(52)0858 FAX(52)1490
発行責任者 石橋英敏
E-mail: hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp



50周年に寄せて 鈴木伸吾実行委員長

鼓習って
みない
か？」と
誘われた
のが始まりです。以来ほぼ毎年参
加し、たくさんの演目を学ぶこと
ができました。同じ演目の年も何
度かありますが、取り組むたびに
新しい発見があり、奥の深
さを感じることもできまし
た。何より、一番の良さは、
子どもたちと一緒に取り組
めるということです。

子どもたちといっしょに

「教室で実践できる太鼓や踊
りを…」ということでも実施してい
るので、私もこれまで多くの学校で
取り組んできました。乙部町の小
学校で同僚と低学年に「ソーラン
節」を教えた時には、子どもたち
も張り切っており、子どもたち
と「疲れた、もう動けない、」
と言っているも、音楽をかけた途
端、並んで踊り出す姿がとても愛
らしかったです。江差町の高学年
とは「太鼓メドレー」をしました。
横笛の練習もさせながら、江差の
祭囃子に寄せ太鼓、ぶち合わせ太
鼓とフルセットの演目にしたこと
もありました。太鼓にはどの町の
どの学年の子ともたちも一生懸
命取り組んでくれました。手のひ
らにマメができた、筋肉痛になっ
たりしますが、それでも全身を使

懸念されています。しかし、毎回
若い先生方の参加もあり、学習発
表会などでの需要も根強いもの
があることから、規模を縮小しな
がらも何とか実施してきました。
「子どもたちと踊ってみたい」「太
鼓をたたいてみたい」という願いが
ある限り、みんなで学ぶ機会を確
保していきたいと思えます。
来年もよろしく願います。

文化活動講座は、子どもたち
に伝えることをねらい、教職員自
らが汗を流し、学ぶ立場から演
目の習得を目指します。その講座
が今年で50回目を迎えました。
二十数年前、初めて講座に参
加した頃は、土日の二日間日程
でした。太鼓の講座でした。当時、
同じ職場にいた先輩同僚から、
「土日何かあるかい？ヒマなら太

鼓をたたき姿が見られまし
た。まずはリズムを覚え、次に姿
勢に気を配り、そして仲間と息を
合わせてテンポを上げていく。個
性や能力に合わせて目標を設定
することがあります。一つの演目の
中でもどんどんレベルアップを
図れるということも太鼓や踊りの良
いところですね。

管内の学校の統廃合が進み、教
職員数も激減してい
る昨今は、講座の参
加者も減少傾向が統
き、継続の難しさも

第50回講座「三宅島木遣り太鼓」に打ち込む受講者=2019年8月17日



文化活動講座半世紀

第50回となる文化活動講座(同実行委員会主催)が8月17日に行われました。1970年をスタートに半世紀の歴史を刻みます。教育や保育の現場職員が自ら技を学び、子どもたちに還しながら伝統文化・芸能の継承と発展を図ろうと実施されてきました。50周年節目の演目は「三宅島木遣り太鼓」、受講者は汗を流しながら練習に打ち込みました。

文化活動講座の指導にあたっ
てきたのは、民族歌舞団「こぶ
し座」です。座は上ノ国町を拠
点に活動を展開した時期があり、
そうした縁から、1970年、
檜山文化活動講座がスタートしま
した。
今回の講座には10名が受講、
奥尻町からの参加もありました。
最初に、こぶし座による模範
演技が披露されました。受講者
はそれを動画に収めながら全体
のイメージ把握に努めていまし
た。打法や構えの基本を学んだ
後、本格的な演習に汗を流し合
5時間余りの練習に汗を流し合
いきました。途中、横笛演奏の手
ほどきも受けました。
「三宅島木遣り太鼓」は東京

「三宅島木遣り太鼓」に打ち込む

都無形民俗文化財に指定されて
いる伊豆諸島芸能の代表的なも
のです。廻船の揚げ下ろしや山
林の木材搬出などの際に唄われ
た労働歌(「木遣り歌」)、その歌
に取り入れられた太鼓です。そ
うした背景も教わりながら、演
奏への思いも深めていきます。
終盤は受講者全員による構成
発表です。立ち振る舞い、歌、
演奏など一連の演出を練り、そ
の日習得した成果を存分に発揮

しました。
初参加の女性教員は、「慣れな
い体の動きに戸惑ったが、みん
などの発表が楽しかった」と振
り返ります。
指導にあたったこぶし座の方
々は、講座半世紀の歴史に寄せ
て、「価値ある伝統芸能を自ら学
び子どもへと継いでいく、そん
な営みそれ自身が伝統継承の姿
そのもの」と話し、その一端を
担ってこられたことへの誇りを
語りました。
互いに汗した一日の労をねぎ
らい、来年度以降のとりくみを
確認しながら散会しました。
(受講者感想裏面別記)

2019人事院勧告

連続引き上げ勧告も 中堅層以降配分なし

8月7日、人事院は国会と
内閣に国家公務員の賃金の勧
告を行いました。
月例給・ボーナスとも6年
連続の引き上げ勧告となりま

すが、月例給については、
中堅層(30歳代半ば)以降に
対する配分がされない内容
です。また、一時金(ボナ
ス)の引き上げがすべて勤
手当に充てられ、能力・実
績主義をいっそう拡大し強
化するものです。
(詳細は裏面)

賃金に関する勧告概要

- (1) 月例給は、公務が民間より387円(0.09%)低いので、行政職俸給表(一)を改定して大卒程度初任給を1500円、高卒者初任給を2000円引き上げる。30歳代半ばまでの職員が号俸について改訂(平均改定率0.1%)するが、それ以降は改訂無し。
- (2) 民間の支給割合が4.51月であるとして、0.05月引き上げ4.50月分としたうえで、今年度については引き上げ分を12月期の勤勉手当に充て、来年度以降については、0.025月分ずつ6月期と12月期の勤勉手当に。
- (3) 住居手当は、支給対象となる家賃額の下限を4000円引き上げ、現行の1万2000円から1万6000円とし、これにより生じる原資を用いて、手当額の上限を1000円引き上げ、現行2万7000円から2万8000円とする。



人事院が入る中央合同庁舎第5号館別館

生活改善程遠い 能力実績主義を強化

教育に専念できる待遇改善求め道人事委へ



労働条件改善を求める中央行動=6月21日

2019人事院勧告・報告

完了したことに伴う現給保障が廃止され、高齢層を中心に最高で1万円を超える賃下げが起きました。本年の人事院勧告における給与の引き上げ幅は公務労働者の生活改善には程遠いものです。

また、一時金(ボーナス)引き上げが勤勉手当に充てられることに関わって、報告は「勤務実績に応じた給与を推進するた」と述べ、能力・実績主義をいっそう拡大強化する企図があらわです。

「公務員人事管理に関する報告」では、「人材の確保」について、採用試験の申込者数の減少にふれ、受験者層に応じた施策を展開し人材確保に幅広い検討が必要であると言及する一方で、「能力・実績に基づく人事

管理」について、分限処分に関する運用の徹底など必要な取り組みを行うとして、政府方針である「人事評価における能力・実績主義の更なる徹底」に呼応し、あからさまに追従するものとなっています。

「ハラスメント防止策」につ

いて、人事院として行ってきた「公務職場におけるパワーハラメント防止対策検討会」の結果を踏まえて、「新たな防止策」を講じることとしました。「定年の引き上げ」についても昨年の意見の申出を踏まえ、定年引き上げを実現するための措置が早期に実現されるよう、政府方針に対して改めて要請するとしています。

臨時・非常勤職員の待遇改善を求めるとりくみを反映し、昨年の結婚休暇や慶弔に係る休暇の取得要件撤廃について、夏

期休暇を新設することとしました。均等待遇にはまだ程遠いものですが、粘り強い要求運動の成果であり、さらに前進させていく必要があります。

今後、地方でのとりくみに移ります。9月中下旬には北海道人事委員会との交渉、11月には道教委との賃金交渉が行われます。公務員の賃金や待遇は、広く社会的な指標となります。教育に専念できる待遇改善を掲げながら、すべての労働者の生活改善を求める共同のとりくみが重要です。

2019檜山合同教育研究領域集会

■ 2019年8月31日(土) 13:00-17:30
 ■ 乙部町生きがい交流センター

実践報告 子どもに寄り添う教育、教師の仕事

笹原昌子さん(せたな町立瀬棚中学校)
 子どもを理解し、その姿と心に寄り添い、父母の願いを探り、関わる人々を繋ぐ—教育の神髄が見えてきます。

| 分科会 | | |
|------------|--------------|---------|
| 学級づくり・生活指導 | 保護者・地域関係づくり | 複式学級の指導 |
| 職場づくり | いじめ・不登校・教育困難 | 教育条件整備 |



全国教研参加環流報告

● 市 来 健さん
 (江差町立江差小学校)
 ● 遠 藤 美由樹さん
 (今金町立今金小学校)
 写真は8月16日~18日、滋賀県で開催された全国教研開会集会

文化活動講座受講者の感想

● 15・6年ぶりの参加でした。これまで「ぶちあわせ太鼓」は何度かたいたことがありました。が、「木遣り太鼓」は初めてで、独特な横打ちに戸惑いました。ですが、みなさんと練習していくうちに少しずつ自然にたたくようになったので、交代のタイミングが

たときは、とても楽しくできました。観るのとやるのは大違いでした。こぶし座の方々の演技は長年の練習のたまもの。間近でその演技を観ることができ、素敵で心地いい感覚になりました。講座演目は、演奏だけでなく順序や振る舞いなど全体の構成を覚えながらの練習だったので、覚えの悪い私にはとても大変な

自ら学んだことなので

● 毎年この時期に開催していたでいて、学芸会に向けてとてもよい機会になっています。自分が自ら学んだことなので教えていても、とても教えやすいです。今後もうこういった伝統芸能にふれる機会を続けていってほしいと思います。

つかめてきたころには、楽しさも感じられ、このような経験を子どもたちにもさせたいなと思いました。50年前に、このような講座を企画実行してくれた先輩方に感謝です。また参加したいです。

● 木遣り太鼓を打ってみて、なかなか手と体と頭がうまくつながらず、自分でもよくわからない動きになっていました。けれども、最後に発表し



構えと打ち方の指導を受ける受講者(左)

ものでした。苦手なことに取り組み子どももの気持ちが変わりました。やさしく寄り添い、くり返し教えてくださるこぶし座の指導法も勉強になりました。子どもたちの教育に生かそうと思います。

● 今年は少し成長できたかもと練習の成果を実感します。横笛がついに音が出ました。とてもうれしかった。学習発表会に向けてがんばりたいと思います。

せんせいばやし

ネット署名にご賛同を!

スマホのバーコードリーダーをかざすと署名の画面につながります。



「賛同」をクリックするとキャンペーン広告支援協力金300円からの画面に切り替わりますが、署名の必須条件ではありません。支援はあくまで任意ですのをご留意ください。



うれしいとき、かなしいときにあなたを応援します。

総合共済

月々 600円

さらに退職時には 掛金が全額戻ります!

- 結婚祝金に10,000円 ● 出産祝金で5,000円
- 災害見舞金に10万円(全壊)など 他にもいろいろ